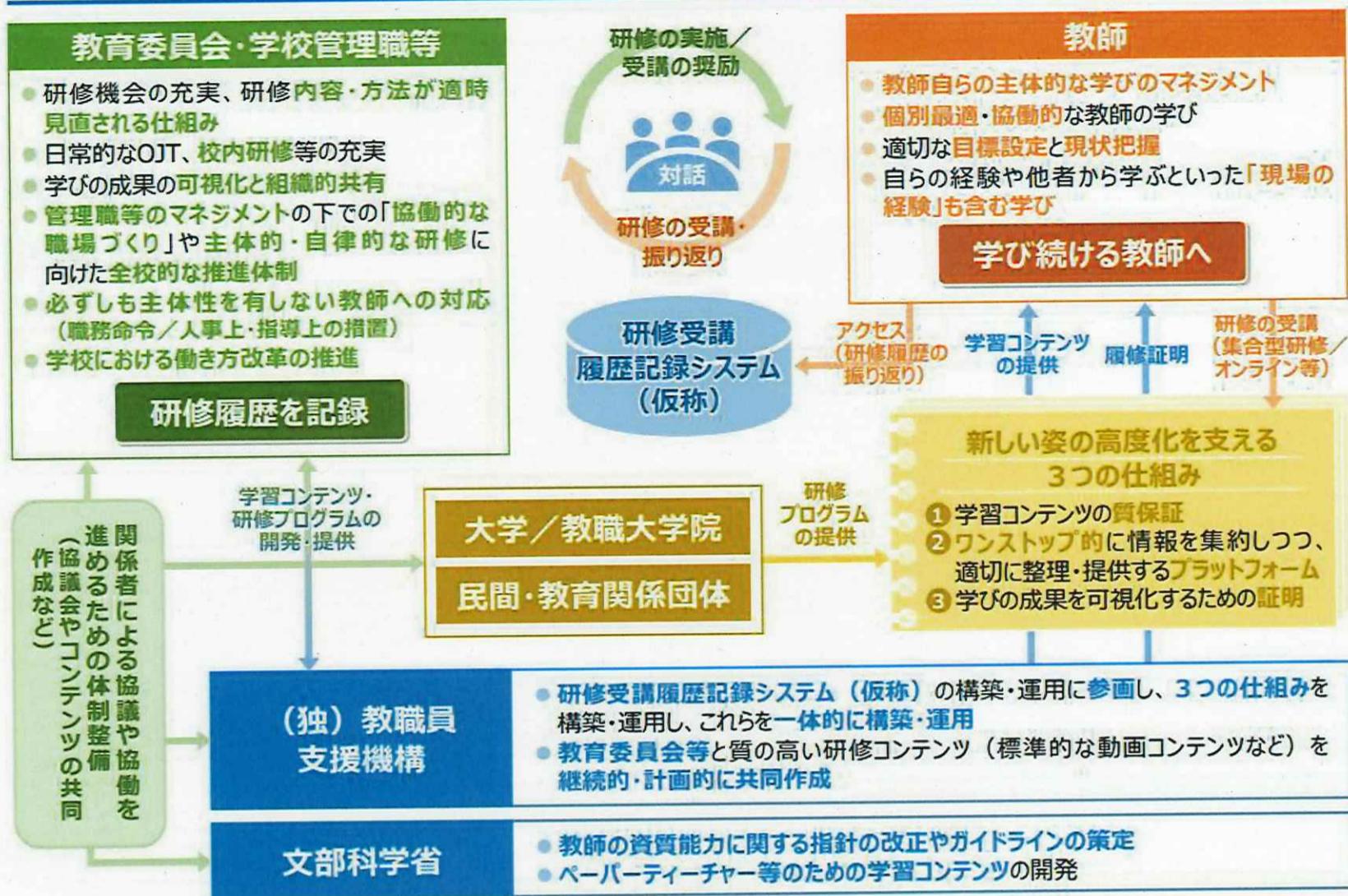


「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿のイメージ



校長及び教員としての資質の向上に関する指標(案)

別紙1-2

令和4年12月14日現在

教員等育成指標(教諭)

キャリア・ライフステージ 年齢 教職経験年数	採用時 (~22歳)	基礎力の形成期 (23歳~27歳) 1~5年	実践力の向上期 (28歳~32歳) 6~10年	実践力の充実期 (33歳~37歳) 11~15年	実践力の発展期 (38歳~47歳) 16~25年	総合力の發揮期 (48歳~) 26年~
		学級担任、副担任等				
目指す教員像	学習指導、児童生徒理解、生徒指導、学級運営など、教育活動に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。	初任教における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。	学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を支援している。	教諭としてこれまでの実践を基に、総合力を發揮しながら円滑な学校運営に貢献している。教員としてこれまでの豊富な経験を踏まえ、若手教員へのサポートを行うなど、人材育成に貢献している。
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)	初任者研修 2年目研修 3年目研修 教職経験者 5年研修 (8年目)	中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)	ステージアップ 研修<前期> (45歳~)	ステージアップ 研修<後期> (55歳~)		
1 教員としての使命感・責任感・倫理観 と 教育的愛情 の 素 養 課題に立ち向かう力	・個別最適な学び、協働的な学びなど「令和の日本型学校教育」の視点を踏まえながら、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高め、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続いている。 ・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇りや高い倫理観を持っている。また、学校教育の質と多様性、柔軟性を高め、教育の機会均等を実現することに寄与している。生徒の死傷といったまいした事故が二度と発生しないよう、自ら、そして組織におけるシゴトアイヌ意識の徹底に取り組んでいる。 ・児童生徒に対する深い愛情と「子どもの権利条約」及び「子ども基本法」に基づく人権意識を持ち、一人一人の児童生徒と真剣に向き合っている。 ・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。 ・様々な背景・価値観を持つ人々と円滑なコミュニケーションを図るとともに、対話を通して情報共有し、相互に考えを伝え深め合いながら、合意形成を図り、課題を解決している。 ・心身共に健康で様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題に含み様々な課題解決に取り組んでいる。	・児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促している。	・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点から組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、学校の実態に応じて改善している。 ・各教科等の資質・能力を育むために必要となる専門的知識を身に付け、「指導と評価の一體化」の実現に向けて継続的に授業改善を取り組んでいる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、児童生徒の主体性を育みながら、学習者中心の授業を実践している。	・教育課程の編成・実施・評価・改善に主体的に参画し、教育課程の編成・実施・評価・改善に向け中核的役割を果たすとともに、幼・小・中・高の学びの連続性や教科等横断的な視点を持って教育活動を実践し、若手教員に模範を示している。	・教育課程の編成・実施・評価・改善に向けた指導的役割を果たすとともに、幼・小・中・高の学びの連続性や教科等横断的な視点を持って教育活動を牽引している。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。
2 学習指導力	・学習指導に関する基礎・基本を理解している。	・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点から組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、学校の実態に応じて改善している。	・各教科等に求められる資質・能力を育むために必要となる専門的知識を身に付け、「指導と評価の一體化」の実現に向けて継続的に授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。
カリキュラム・マネジメント	・学習指導要領に基づくカリキュラム・マネジメントに関する基礎・基本を理解している。	・各教科等に求められる資質・能力を育むために必要となる専門的知識を身に付け、「指導と評価の一體化」の実現に向けて継続的に授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。
教科教育等の専門性	・各教科等に求められる資質・能力及び学習評価に関する必要な知識を身に付けている。	・各教科等に求められる資質・能力、学習指導と学習評価について明確に理解して授業改善に取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、学習指導と学習評価の改善を図りながら授業改善を取り組んでいる。
確かな学力を育む授業	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と学習者中心の授業像について理解している。	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から教材研究を行なうなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を行なうなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を行なうなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を行なうなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。	・児童生徒の発達段階や一人一人の多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を行なうなど、学習者中心の授業となるよう、若手教員に模範を示している。
3 生徒指導力	・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。	・常にカウンセリングマインドを持ち、他の教職員や関係機関等と連携しながら、日常の児童生徒との人間的な触れ合いや問題行動への対応とした態度などを通じて信頼関係を築き、相互関係にある個人と集団を高めることを意識して指導している。	・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。	・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。	・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。	・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。
発達支持の生徒指導	・学校教育目標を踏まえて、学級運営の方針を立てながら児童生徒の多様性に応じた指導のための必要な知識を身に付けている。	・学校教育目標を踏まえて、学級運営の方針を立てながら児童生徒の多様性に応じた指導のための必要な知識を身に付けている。	・学校教育目標を踏まえて、学級運営の方針を立てながら児童生徒の多様性に応じた指導のための必要な知識を身に付けている。	・学校教育目標を踏まえて、学級運営の方針を立てながら児童生徒の多様性に応じた指導のための必要な知識を身に付けている。	・一人一人の多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導の両面から発達支持的生徒指導を実践している。	・一人一人の多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導の両面から発達支持的生徒指導を実践している。
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。
教育相談	・教育相談の意義や理論(心理・福祉)に関する基礎的な知識を含む。)を理解している。	・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。	・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。
4 マネジメント力	・学校が組織として教育活動に取り組むこと及び関係者との連携・協働の重要性について理解している。	・学校内外の教育資源(人・もの・資金・情報・時間等)を効果的に活用して、学校経営計画のもと、評価・改善の観点を持って業務を推進している。	・育てたい子ども像、目標すべき教育ビジョンを保護者や地域住民と共に、目標の実現に向けて連携・協働する姿勢を身に付けている。	・子どもたちや教職員の生命・心身を脅かす事故・災害等に普段から備え、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備えている。	・学校内外の教育資源(人・もの・資金・情報・時間等)を効果的に活用して、学校経営計画のもと、評価・改善の観点を持って業務を推進している。	・学校内外の教育資源(人・もの・資金・情報・時間等)を効果的に活用して、学校経営計画のもと、評価・改善の観点を持って業務を推進している。
学校組織としての連携・協働	・学校組織や校務分掌等について理解している。	・校内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。	・分掌内の動きを見通し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌運営に必要なスキルを向上させている。	・幅広い分掌の経験に基づいて学校全体の動きを見通し、建設的な提言をしながら業務を推進している。	・同僚の業務を支援するとともに、学校内外の動きを考慮しながら各種業務を推進している。	・学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方策などを具申し、調整を図りながら業務を推進している。
危機管理	・学校安全、学校保健、食育に関する基本的な知識と情報の報・連・相に努めている。	・常に児童生徒の安全・保健に配慮し、日頃から同僚と学校事故等に対する危機管理の重要性を認識している。	・危機の前兆を予測や危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。	・児童生徒自身に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。	・危機対応に際しては、関係機関と適切に連携をとり、具体的に行動している。	・保護者、地域、関係機関からの要請や苦情に対して、円滑・迅速に対応している。
関係者等との連携・協働	・学校が、家庭や地域、関係機関と連携・協働することの重要性を理解している。	・学校や部活動等で担当する児童生徒の保護者と積極的なコミュニケーションに努めている。	・保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。	・関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報共有している。	・関係者との連携した教育活動の際、積極的に調整役を担っている。	・関係者との信頼関係を築き、地域の教育資源を教育活動に繋げている。
5 復興教育の視点	・「いわての復興教育」が本県の教育の柱の一つであることを理解している。	・復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解する。	・学校や地域の実情・課題に応じて、多様な地域資源を活用するとともに、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わながら教育活動を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。	・自校の学校経営の重点に位置付けられた復興教育を、児童生徒や学校・地域の実情を踏まえ、学校全体の教育活動と関連付けながら家庭・地域・関係機関・団体等と協働した具体的な取組により牽引している。	・今後発生が予想される自然災害等に備えた実践的で効果的な防災教育を推進するとともに、命の価値や地域の人々とのつながりの大ささを理解せながら、指導計画の立案や校内体制の構築、教育課程の編成・実施・改善などを組織的に進め、教育活動全体を通じた復興教育の充実に貢献している。	・学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方策などを具申し、調整を図りながら業務を推進している。
6 キャリア教育の視点	・キャリア教育の考え方や重要性を理解している。 ・社会や経済の状況に关心を持っている。	・「いわてのキャリア教育指針」を理解し、地域社会や企業等と連携しながら、児童生徒に総合生活力と人生設計力を育成するなど、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。	・本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、幼・小・中・高や社会との接続を意識しながら教育活動を実践している。	・家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整を行い、校内外の関係者と協働しながら取組を牽引している。	・学校のキャリア教育全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。	・自ら、学校内外の関係者に働きかけ、その相互作用により、学校としての教育力の最大化を図っている。
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点	・特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解している。	・「いわて特別支援教育推進プラン」を理解し、障がいに関する知識や配慮等についての理解を深め、特別支援教育コーディネーター等の関係者と連携を図り、個に応じた指導や多様な価値観等に配慮した指導を通じて、「共に学び、共に育つ教育」を推進している。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摶する視点を持ち、組織的に対応するために必要となる知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	・教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働のものと、個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行なうながら指導を改善している。	・校内支援体制の充実を図りながら、教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。	・教職員の特性を見出し、日常的に質質向上やライフプランに関する指導・助言を行っている。
特別支援教育	・共生社会の実現に向けた特別支援教育の理念や指導方法について理解している。	・児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進め、指導内容や指導方法を工夫している。	・教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働のものと、個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行なうながら指導を改善している。	・校内支援体制の充実を図りながら、教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。	・教職員の特性を見出し、日常的に質質向上やライフプランに関する指導・助言を行っている。	・教職員の特性を見出し、日常的に質質向上やライフプランに関する指導・助言を行っている。
多様性への配慮	・児童生徒の多様性を踏まえ、個々の教育ニーズに応じた指導の重要性について理解している。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摶する視点を持ち、組織的に対応するために必要となる知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摶する視点を持ち、学習上・生活上の支援に向けた組織的な取組により牽引している。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摶する視点を持ち、学習上・生活上の支援に向けた組織的な取組により牽引している。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摎するための幅広い見識を持ち、学習上・生活上の支援に向けた組織的な取組により牽引している。	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の多様性を包摎するための幅広い見識を持ち、関係機関等と連携するなどして組織的な支援に向けて助言している。
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点	・ICTや情報・教育データの利活用の意義を理解している。	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための授業実践等を行っている。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、学力測定の結果等の教育データを活用し、指導の改善を行なうとともに、児童生徒の学習の改善を図っている。			

教員等育成指標(校長)	
総合力の発揮期 (校長)	校長
教員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、校舎を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。	教員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、校舎を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。
新任校長 研修	新任校長 研修
●教諭として高めてきた素養・資質 ●教育者としての高い見識 ●地域住民や関係機関の期待を受け止め務の重要な性を自覚している。 ●教職員ははじめ児童生徒・保護者・関係者に説明できる教育哲学・理念がある。 ●豊かな経験・基礎的な判断力・決断力・リーダーシップを有している。 ●国・県・市町村の教育施策等について情報収集し教職員に周知している。	●教諭として高めてきた素養・資質<br

令和5年度における研修履歴の記録に関する概要について（案）

➤ 記録の目的（目的の周知、対話に基づく受講奨励の周知）

- 「いわての教職員研修ガイドブック」、「教職員研修の手引」の活用
- 指導主事会議(R5.1)、教育事務所長会議、市町村教育委員会との意見交換、県立学校長会議(R5.2)などの会議を活用して周知

➤ 記録の範囲

必須
記録
研修等

- 研修実施者が実施する研修
 - ・具体として、「教職員研修の手引」に掲載の、
 - (1) 基本研修 (2) 特別研修 (3) 希望研修 (4) 希望研修(公開研修) (5) 派遣研修 (6) 公開講演
 - ・教育センターの随時研修、要請研修
 - ・同じく「教職員研修の手引」に掲載の、県教育委員会の各室課が実施する研修一覧の研修講座等
 - ・教育事務所が実施する研修事業等（訪問事業や会議等を除く）
 - 大学院修学休業により履修した大学院の課程等
 - 任命権者が開設した免許法認定講習及び認定通信教育による単位の修得

任意
記録
研修等

- 職務研修として行われる市町村教育委員会等が実施する研修等
 - ※高い必要性に鑑みて受けるものであることから、記録が望ましい。
- 職専免研修
- 学校現場で日常的な学びとして行われる一定の校内研修・研究等
 - （資質向上を図る上で教師個人の研修履歴を蓄積しそれを振り返るという趣旨に適う研修等）
- 職務研修以外に教師が自主的に参加する研修等（職専免研修を除く）
 - ※記録の負担のために研修受講をためらうことには繋がらないよう、教師の申告により選択的に記録することとする。

➤ 記録の内容

- 研修名、研修主催者、研修実施方法、研修実施日・期間、受講した気づき・所感、教員育成指標との関係等
 - ※文部科学省が示した「受講履歴一覧シート」（資料No.5-2参照）に基づき記録する内容を現在検討中。

➤ 記録の方法

- Excelファイルにより研修履歴を記録する。
 - ※Excelファイルは、文部科学省が示した「受講履歴一覧シート」（資料No.5-2参照）に基づき現在検討中。
- 令和5年度の研修受講の履歴（受講予定含む）を教員個人がファイルに記録し管理職等に提出する。

➤ 記録の時期

- 例えば、年度初めと人事の時期に行われる面談の前までに記録する。
- 年度初め等の各種会議等において、管理職等との面談で研修履歴を活用することを周知する。

➤ 記録の閲覧・提供

- 令和5年度以降の研修履歴を記録することとし、令和5年度は記録の閲覧と提供は行わない。
- 令和6年度以降のシステムの運用ルール等に基づき、記録の閲覧と提供を開始することとする。

令和5年度以降の研修体系について

学校企画調整担当

策定の背景・趣旨等

- 教員免許更新制が発展的に解消され、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿が示された。
 - それに伴い、校長及び教員としての資質の向上に関する指標（以下、育成指標）に基づき教員免許更新講習と併せて実施していた中堅教諭等資質向上研修（以下、中堅研）及び中堅研以降の研修について、令和5年度以降のいわての教員のあるべき姿を実現する研修体系の在り方について検討。
 - 育成指標に基づき、「学び続ける教師」として教員が主体的に自らの資質向上を図ることができるよう、研修内容の質の担保を図りつつ、過度な負担とならない形での新たな研修制度を構築。

岩手県の教職員研修体系（R5以降）

キャリア・ライフステージ		基礎力の形成期			実践力の向上期		実践力の充実期		実践力の発展期		総合力の発揮期
年齢 (目安) 教職経験年数 (目安)		23歳～27歳 1～5年			28歳～32歳 6～10年		33歳～37歳 11～15年		38歳～47歳 16～25年		48歳～ 26年～
採用前等											
基本研修	教諭	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	初任者 研修	2年目 研修	3年目 研修		教職経験者 5年研修 (6年目)		中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)		ステージアップ 研修(前期) 45歳
		幼稚園等	初任者研修						中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)		ステージアップ 研修(後期) 55歳
	養護教諭	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	初任者 研修	2年目 研修	3年目 研修		教職経験者 5年研修 (6年目)		中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)		ステージアップ 研修(前期) 45歳
	栄養教諭	小学校 中学校 特別支援学校	初任者 研修 新規任用 研修	2年目 研修	3年目 研修		教職経験者 5年研修 (6年目)		中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)		ステージアップ 研修(後期) 55歳
	実習教諭・ 寄宿舎指導員	高等学校 特別支援学校	新規採用 研修								
	事務職員		新採用 研修		採用3年目 研修						中堅職員研修・新任主任等研修・新任主査研修
特別研修	管理職・教諭等								新任研修		
	教諭等	臨時の任用 教員等研修							教職専門等研修		
	事務職員								事務職専門研修		
希望研修	教諭等	採用候補者 研修							教科研修・領域等研修・情報教育研修・教育相談等研修・特別支援教育研修・幼児教育研修		
									公開研修講座(教科、情報教育研修等)		
派遣研修	教諭等								長期研修生(教育研究コース、養成研修コース)		
									通級による指導担当教員養成		
その他の研修											
		移動センター研修					要請研修 随時研修・どようび研修		県教育委員会 各室課が実施する研修		教育事務所・ 市町村教育委員会 が実施する研修